



上向台小だより

9月号

西東京市立上向台小学校

令和5年9月1日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai>

一人一人の子どもを主語にする学校に向けて

校長 酒見 裕子

長い夏休みが終わり、元気な子どもたちの声が戻ってきました。今年の夏は、久しぶりに様々な経験ができた御家庭も多かったのではないのでしょうか？

さて、夏休みと言えば甲子園（全国高等学校野球選手権）!!!今年の優勝校の慶應義塾高等学校については、生徒の髪型や応援のマナー、選手の獲得方法についてなど、様々な報道もありましたが、私は森林監督の「選手に主体性を伸ばす指導法」に共感しました。

森林監督は、「指導者の指示どおりに動くだけでは、高校野球は人材育成の場として物足りない。高校野球の中で個性や主体性、多様性といったものをもっと追求していきたいですね。」と語っていました。この考え方は、まさに、上向台小学校の学校経営方針の重点である「一人一人の子どもを主語にする学校へ」とつながると感じています。

今年度、上向台小学校では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、「教師が教える授業」から「子どもが学ぶ授業」への転換を図っています。

それは、社会で求められる力がこれまでとは大きく異なってきているからです。これまで学校は150年間、基本的にみんなと同じことができること、記憶力や勤勉性などが評価されてきました。それでは、今後、どのような社会になり、そこで求められる力とはどのようなものなのでしょうか。

経済産業省は令和4年5月に「未来人材ビジョン」を公表し、社会で働くために必要な能力等を示していますが、企業が2050年（令和32年）に向けて最も求めている力は「問題発見力」です。その他にも、「的確な予測」や、新たなモノ、サービス、方法等を作り出す「革新性」等が上位となっています。

これからは人間よりAIの方が得意な「記憶力」より、「AIに代替できない力」、「AIをうまく活用できる力」等が必要になってくるでしょう。多様な世代や人種、様々な価値観をもつ人々の間においてもコミュニケーションやネゴシエーションができること、協調しながら問題を解決できること、発想力や段取り力、新しい価値観を生み出していく力も求められます。

これらの力は従来の知識伝達型の「教師が教える授業」では、身に付けることは難しいと考えられます。

また「教師が教える授業」では、教師が黒板に

書いて説明し、質問を伝え、手を挙げた子どもが答えて授業が進んでいきます。このような従来どおりの授業スタイルの中にタブレット端末を取り入れたとしても、単なる検索や清書をするための機器にしかならず、教育効果は上がらないと言われています。

教師が「今日のめあては〇〇です」と指し示す授業から脱却し、一人一人の子どもが「なぜだろう」、「調べてみたいな」、「どうしたら解決できるかな」と、「一人一人の子どもが主語」となるめあてを設定できるよう導入を工夫し、友達や教師と対話や共有をしながら課題解決に向けて学び、そして「自分は何を学んだのか」、「学び方はどうだったのか」を振り返る。このような授業において初めてタブレット端末は、課題を発見したり、情報を収集したり、効果的に表現・発信したりするなど「学習に必要な道具」となります。

上向台小学校では、各学級でいくつかの単位について、子ども自ら学び方を選択し、自立した学習者になることを目指した授業（「みんな一緒に」、「同じことを」、「同じ方法で」の学びからの脱却）に挑戦しているところです。「子ども一人一人を主語にする」授業は、今までと同じように、黒板のある前の方を向き、授業を静かに聞いている様子ではありません。教師の姿も「教える」よりも、子どもたちに寄り添って「伴走する」時間が増えると思います。今後、保護者や地域の皆さんが受けてきた授業とは違う授業スタイルを目にすることもあると思います。日々、授業改善を行い、子どもの主体性を引き出そうとしている教師の努力や子どもたちの真の伸びる姿をぜひ感じ取っていただければと思います。

さて、冒頭の森林監督は、「高校野球の新たな可能性や多様性を示せばいいな」と思い、常識を覆すという目的に向けて日本一を目指してきた。うちの優勝から新しいものが生まれればうれしいですし、高校野球の新しい姿につながる勝利だったと思います。」とおっしゃっていました。この「高校野球」の部分を「学校」に変えても通じる内容だと感じています。

2学期は、体育発表会や展覧会等、様々な行事も行われます。ただ単純にコロナ前に戻したり、教師の指示どおりに行ったりする行事ではなく、子どもが主体的に考えたり活動したりする場面を多く設けられるよう、学校教育の新たな可能性や多様性を示していけたら……と考えております。

2学期も、皆様の御理解と御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。